

移転跡地に活気戻そう

仙台の食・農・温泉複合施設起工式

東日本大震災に伴う仙台

市の防災集団移転跡地の利

活用事業で、建設業の深松

組（青葉区）が若林区藤塚

地区に整備する農園、温泉、

レストランの複合施設「ア

クアイグニス仙台（仮称）」

の起工式が10日、現地であ

った。

新型コロナウイルス感染

防止のため、規模を縮小し

た式典には同社社員ら約20

人が参加。深松努社長は「経

済の冷え込みが予想される

中、建設工事と施設運営で

雇用を生み出したい。にぎ

わいを取り戻し、住んでい

た人にも来てもらえる施設



にする」と語った。

今秋ごろまでに土地を造

成。1月に着手した温泉掘

削工事は6月末までの予定

だったが、岩盤が固いため

9月末までかかる。

施設の温泉棟は2階建て

で高さ15層を確保し、津波

発生時は約2000人の

避難場所にする。2021

年11月の完成を予定し、22

年4月のオープンを目指

す。保育所も整備し、従業員約250人を地元雇用する。

アクアイグニス造成工事が着工

造成設計IIアーバンプロット施工II深松組

台
reborn

仙台reborn(深松
努代表取締役)が仙台市に
整備する複合施設「(仮称)
アクアイグニス仙台」の開
発造成工事が着工を迎え、
10日に現地で地鎮祭が行わ
れた。造成設計はアーバン
プロット(仙台市)、施工

は深松組がそれぞれ担当。
参加者らは工事の無事竣工
を祈った。

アクアイグニス仙台は、
仙台市若林区藤塚地内に温
泉や飲食店、マルシェなど
を備えた複合施設。設計は
ARTS(三重県津市)、
施工は深松組と杜の都建設
協同組合(深松努理事長)
がそれぞれ担当。整備・運
営は三重県内で複合温泉リ
ゾート施設を展開するアク
アイグニス(東京都中央区
立花哲也代表取締役)と深
松組などが共同出資して設
立した仙台rebornが
手掛ける。同事業は、宮城
県の「沿岸部交流人口拡大
モデル施設整備事業」や仙
台市の「東部沿岸部集団移
転跡地利活用事業」に選定

されている。
ことし1月には温泉掘削
工事が着工。造成工事の竣
工はことし9月末を予定し
ており、秋口にも施設の工
事に取り掛かる見通し。

当日は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点
から参加者を工事関係者約
20人に限定して開催。神事
では、鎌入れをアーバン
プロットの松田淳一代表取締
役、鍬入れを仙台rebo
rnの深松代表取締役、鋤
入れを深松組の深松徹取締
役副社長がそれぞれ行った。
深松代表取締役は「東日

本大震災の影響で今は更地
だが、この地はもともと集
落だった。そのころの賑わ
いを取り戻したい。また、
この事業には建設工事の従

事者や施設の従業員など、
雇用を生み出す効果も期待
される。これからは本番だ
と気持ちを引き締め、安全
に配慮し竣工を目指す」と
力強く語った。

立花代表取締役の代理で
出席したアクアイグニス経
営企画部の奥谷充由氏は
「仙台の地場産品は世界に
誇る素晴らしいものだ。そ
こに新たな価値を付与する
のがわれわれの使命と考
えている。賑わい創出のため
全力で取り組む」と話した。



完成パース



アーバンプロットの松田代表



仙台rebornの深松代表



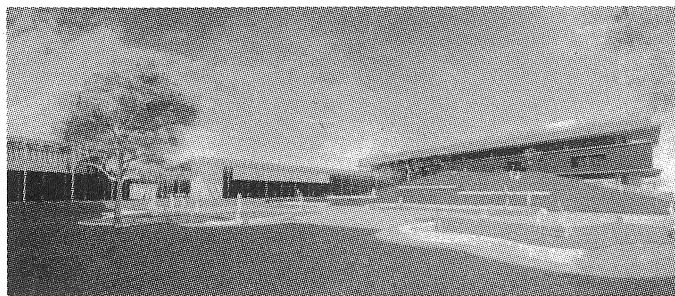
深松組の深松副社長

仙台reborn

アクアイグニス造成工事が着工

造成設計=アーバンプロット 施工=深松組

完成イメージ



仙台reborn(深松組代表取締役)が仙台市に整備する複合施設「(仮称)アクアイグニス仙台」の開造成工事が着工を迎え、10日に現地で地鎮祭が行われた。造成設計はアーバン

プロット、施工は深松組がそれぞれ担当。参加者らは工事の無事竣工を祈った。アクアイグニス仙台は、仙台市若林区藤塚地内に温泉や飲食店、マルシェなどを備えた複合施設。設計は

ARTS(三重県津市)、施工は深松組と杜の都建設協同組合(深松努理事長)がそれぞれ担当。整備・運営は三重県で複合温泉リゾート施設を展開するアクアイグニス(東京都中央区立花哲也代表取締役)と深松組などが共同出資し、設立した仙台rebornが手掛ける。同事業は、宮城県「沿岸部交流人口拡大モデル施設整備事業」や仙台市の「東部沿岸部集団移転跡地利活用事業」に選定されている。

ことし1月には温泉掘削工事が着工している。造成

工事の竣工はことし9月末を予定しており、秋口にも施設の工事に切り掛かる見通し。

当日は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から参加者を工事の関係者約20人に限定して開催。神事では、鎌入れをアーバンプロットの松田淳一代表取締役、鍬入れを仙台rebornの深松代表取締役、鋤入れを深松組の深松徹取締役副社長がそれぞれ行った。

落だった。そのころの賑わいを取り戻したい。また、この事業には建設工事の従事者や施設の従業員など、雇用を生み出す効果も期待される。これらが本番だと気持ちを引き締め、安全に配慮し竣工を目指す」と力強く語った。

立花代表取締役の代理で出席したアクアイグニス経営企画部の奥谷充由氏は「仙台の地場産品は世界に誇る素晴らしいものだ。そこに新たな価値を付与するのがわれわれの使命と考えている。賑わい創出のため全力で取り組む」と話した。

松田代表



深松代表



深松副社長



深松組・仙台reborn

深松組(仙台市青葉区、深松努代表取締役社長)が整備する、食と癒しの複合施設「アクアイグニス仙台(仮称)の開発造成工事の地鎮祭が10日、仙台市若林区藤塚地区で

式典は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、規模を縮小して行われた。深松代表取締役のほか、仙台rebornの関係者、造成設計を担当するアーバンプロットの松田淳一代表取締役、施工者の深松組など20人が工事の無事故・無災害を祈願した。

式典は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、規模を縮小して行われた。深松代表取締役のほか、仙台rebornの関係者、造成設計を担当するアーバンプロットの松田淳一代表取締役、施工者の深松組など20人が工事の無事故・無災害を祈願した。

た。アーバンプロットの松田淳一代表取締役、施工者の深松組の深松徹副社長が鋤入れを行った。深松代表取締役は「津波で集落が無くなった地区に、

た。事業地は、仙台市の東部復興道路の東側で、同線と事業地を結ぶ市道も開発区域に追加された。開発面積は約3・6ha。造成工事では支障物の撤去、排水管の敷設、道路高に合わせた盛土工(1m未満)で整地する。道路は幅員10mに拡幅し、総延長で約400mを施工する。

開発造成工事が着工

アクアイグニス仙台

同事業は、仙台市の防災集団移転跡地利活用事業に提案し19年4月に選定された。温泉棟を核に食と癒しの複合施設を整備する。建築工事は秋着工の見通し。

上から、鋤入れの儀で齋鎌を務めるアーバンプロットの松田社長、齋鋤を務める深松社長、齋鋤を務める深松徹副社長



【現場代理人の深松組 石母田知己氏の話】工期は半年でタイトだが、建築工事着工に間に合うよう、協力企業や監理者を増員し、コミュニケーションを密に安全第一に完工したい。

防集移転跡地に賑わい創出

複合施設「アクアイグニス仙台」造成着手

仙台bor

仙台bor n(深松努代表取締役)が、東日本大震災で被災した仙台市沿岸部の防災集団移転事業の跡地を活用し、温泉と食をテーマに総合リゾートとして開発する複合施設(仮)「アクアイグニス仙台」の造成工事に伴う着工式が10日、仙台市若林区

施工=深松組

藤塚の現地で行われた。深松組の施工で、9月末まで造成を進め、10月から本体建築工事に着手。22年春の完成を予定する。同プロジェクトは、仙

台市の防災移転跡地利用事業として、また宮城県が公募した「沿岸部交流人口拡大モデル事業」にも選定され、復興を後押しする賑いの場を創出する。



鎌入れの松田社長



鎌入れの深松社長



鎌入れの深松副社長

敷地3万4000平方メートルに、農園レストラン、ベーカーリー、地元食材のマルシェ、物販、温泉棟など6棟延1万平方メートルを整備。温泉棟は温泉掘削が1月から始まり、津波発生時は避難場所として使用される。年間100万人の来場を目指す。アクアイグニス(三重県)がプロデュースする。総事業費は30億円。

深松社長は、「施設のオープン後は250人の雇用が発生する。有名シェフたちによる地元食材を活かしたレストランや温泉保養施設を設け、藤塚地区に賑わいを取り戻し地元へ貢献したい」と語った。

入れを深松社長、鋤入れを深松徹深松組取締役副社長が行い、工事の安全を祈願した。

深松社長は、「施設のオープン後は250人の雇用が発生する。有名シェフたちによる地元食材を活かしたレストランや温泉保養施設を設け、藤塚地区に賑わいを取り戻し地元へ貢献したい」と語った。

深松組のアクアイグニス仙台

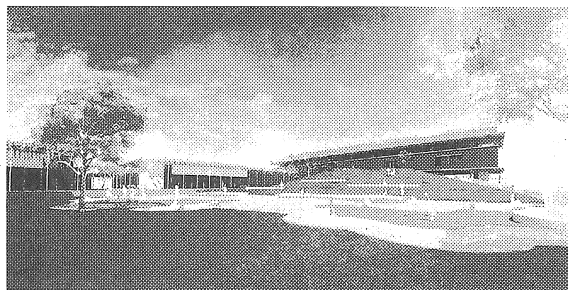
開発造成に本格着工 22年春オープン目指す

深松組(仙台市、深松努社長)などが、東日本大震災で被災した仙台市東部沿岸部の防災集団移転跡地に整備する、温泉と食の総合リゾート(仮称)「アクアイグニス仙台」の開発造成工事が10日、同社の施工で本格着工した。造成設計はアーバンプロット

が担当。今秋から建築工事に着手し、2022年春のオープンを目指す。アクアイグニス仙台は、温泉やレストラン、農園などがなる複合施設。具体的にはメインの温泉棟(SRC造2階建て延べ3036平方メートル)のほか、産直レストランなどが入るマルチ棟(木造平屋建て775平方メートル)、スイツ棟(同670平方メートル)、ベーカー棟(同345平方メートル)、イタリアン棟(同670平方メートル)、野菜・果物ハウスなどで構成する。

温泉棟は高さ15メートルを確保し、津波発生時には屋上を約2000人収容の避難場所として利用する。1月から源泉掘削工事に着手しており、9月までに地下約1000メートル掘り進める予定だ。

完成予想図



また、多目的広場やヒート

アップ、園路、約330台分の駐車場などを備える。事業主体は同社などが設立した仙台reborn(同社長)。総事業費は約30億円を見込んでいる。

建築設計はARTS(津市)が担当しており、施工は温泉棟が深松組、温泉棟以外の木造建築および外構は、仙台建設業協会の会員企業でつくる「社の都建設協同組合」が担う。



鎌入れする松田社長



鎌入れする深松社長



鎌入れする深松副社長

開発面積は約3.6畧となる。神事には深松社長や松田淳一アーバンプロット社長、深松徹深松組副社長ら約30人が出席。代表者による鎌くわ入れの後、神前に玉ぐしをささげ、工事の安全と早期完成を祈願した。

神事後、あいさつに立った深松社長は「新型コロナウイルスの影響で、世界中が大変な状況になっているが、まずは造成・建築工事で雇用を生み出し、オープン時には約250人を雇う予定だ。藤塚地区のにぎわいを取り戻し、永

続して営業できる施設にしたい」と述べた。